

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	藤田 景子
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美

講演題目	
静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p>【研究目的】 本研究では、静岡県において医療的ケア児等コーディネーターが行う未就園児の家族支援における課題について明らかにすることを目的とした。</p> <p>【研究方法】 本研究は、質的記述的研究である。研究協力者に対し、60分程度の半構造化インタビューを行い、現在行っている支援、行えていない支援等について質問した。静岡県では、障害児者を対象とした障害福祉計画等の策定に当たり、地域の実情等を反映することができるよう、成果目標や活動指標を8か所の障害保健福祉圏域単位で集計・調整している。本研究においても、複数の圏域で研究協力者のリクルートを行うことで、地域等の実情を踏まえた結果を得ることができるよう努めた。</p> <p>【結果と考察】 4か所の障害保健福祉圏域において、7名の医療的ケア児等コーディネーターから研究協力を得ることができた。コーディネーターの職業背景としては、看護師、保健師、相談支援専門員、理学療法士、保育士の資格を有していた。コーディネーターとしての経験年数は3～5年、職業的に医療ケアを持つ子どもや家族と関わった年数は10～47年であった。コーディネーターは、各々の職業経験をもとに、家族の生活に関するアセスメントを行い、福祉サービス等の利用を調整していた。福祉サービス等の利用においては、母親の思いや各家庭の育児方針、家族の就労ニーズをコーディネーターが察知し、家族に提案することで必要な支援に繋げていた。特に未就園児では、2021年の「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の公布により、こども園での受け入れが開始されて間もないことから、コーディネーターが家族と保育現場を繋ぎながら、就園環境を整えることに尽力していた。また、必要な支援を順調にコーディネートできたことで自信に繋がるケースと、コーディネートできていないことで不全感を感じるケースがあった。不全感を感じるケースでは、医療的ケア児と家族の未来を案ずると共に、コーディネーターとしてのアイデンティティを模索していた。</p> <p>【今後の展望】 コーディネーターが未就園の家族支援を続ける上で、家族の抱える問題を認識して解決する経験を積むこと、自己研鑽の機会や他職種との学び合いの場を持つことの必要性が示唆された。今後は、コーディネーターの教育研修ニーズを調査し、実施評価していく必要がある。</p>	